

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| <p>団体名</p> | <p>NPO法人輝くママ支援ネットワークぱらママ</p> | <p>活動タイトル</p> | <p>IT×地域のかで医療的ケア児家族の避難支援コミュニティづくり</p> | |
| <p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p> | | <p>■ 活動風景</p> | | |
| <p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p> | <p>貧困、格差、ひとり親等の社会課題を抱えながらも、孤育てではなく、地域社会全体で子どもを育てることができる社会を目指す。それは、誰もが安心して、安全に暮らせる社会である。平時には気をかけ、声をかけ合い、災害や犯罪などの有事の際には、助け合い、協力し合える仕組みやコミュニティが各地域に存在する。昭和時代に各地域に当たり前に存在した町内会活動を理想とする。会合やお祭り、スポーツイベントや子ども会活動等が定期的に行われ、公園で遊ぶ子どもを大人たちが見守り、路上ですれ違う際には互いに挨拶を交わし、隣に住むおばちゃんやおじちゃんが登下校時に交差点にいてくれる。そんな古き良き時代の人間関係がある社会を目指す。</p> | | <p>支援者養成講座 能登に災害支援に入っている山中防災看護師の講座にて</p> |  |
| <p>●団体の社会的役割(ミッション)</p> | <p>避難訓練をきっかけとしたコミュニティ作りを推進する。活動を始めて11年目になる当団体の理念は「場所や時間を選ばず、誰もが自分らしく笑顔で働ける社会をつくる」である。医療的ケア児家族の就労については、当団体の得意分野であり、資源も実績もあるが、新たな避難課題については、試行錯誤しながら進めている。具体的には、以下3点。 ① SNSやホームページ、プレスリリースによる情報発信。障がいなくすることは知ることから。社会全体の課題としての認知度向上。(第三者の立場である当団体が情報発信することに意義があると考える。)</p> | | | |
| <p>●団体の活動基盤</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 人的資源：広報担当、事務局、避難訓練のための医師又は看護師、危機管理室の担当者、自主防災組織又は町内会、当事者家族、支援者、支援者養成講座の講師 ● 物的資源：第一フェーズにある個別避難計画書作成ツール「イツミー!」の完成版、実証段階にある支援者養成講座の完成版、避難訓練マニュアルの完成版、PV10万以上のHP ● 活動資金：自主事業と受益者負担により、固定費となるHP及びイツミー!の管理費（2万円/年）と情報発信担当者事務局の人員費（120万円/年）を賄い、避難訓練（人員費5万円/回）を自治体の予算で実施。講座の講師料（2万円×5人＝10万円/1クール）を受講料@5,000または自治体の予算により賄う。 | | | |
| <p>■ 活動報告</p> | | <p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p> | | |
| <p>● 支援者養成講座、避難訓練マニュアルを避難訓練の実施により検証 支援者養成講座を全5回オンラインにて開催した。のべ14名の方が県内、県外から参加していただき、講義後には不明点などの質疑応答も積極的に行うことができ、参加者が実際に避難訓練を行う際には大いに役に立つ情報を提供することができた。 避難訓練を9/26に開催した。町内会防災会の方々を中心に4歳の医療的ケアが必要なお子さんの避難サポート(お母さんが持つことができない分の最低限の携帯品や医療機器を持つ)をしていただき指定避難場所である小学校まで徒歩で移動し避難場所である理科室内の設備等を小学校の教頭に確認し、発災時の想定をすることができた。 ● 全国展開を視野に入れた本事業の広報活動 開催予定の講座をSNSやホームページにて事前に告知、開催済みの講座については順次ホームページに記事を掲載することにより居住地関係なく、発災時にはどのような行動や心構え、それに向けてどのような準備が必要かを発信し、知ってもらうことを可能にした。</p> | | <p>● 支援者養成講座 開催 全5回(当初の目標通り) ● 避難訓練 開催 1回 目標アウトカム 「講座・避難訓練の検証と改善ができ、県外で実施するためのモデルが完成する。」 支援者養成講座では講座後アンケートを実施、避難訓練では訓練後に参加者にヒアリングを行うことで検証と改善をすることができた。 ● 全国展開を視野に入れた本事業の広報活動 当団体のスタッフがサポートをし、当事者家族が滞りなくホームページに記事をアップし活動内容を発信することができた。 ● 活動基盤の強化 協賛金や寄付金等の支援は得ることができなかった。 イツミーの利用料についてはアンケート結果より金額感は段階2であることが分かった。有料化には到達することはできなかった。</p> | | |
| <p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> | | <p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p> | | <p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> |
| <p>● 医療的ケアが必要な子どもとその家族の発災時サポート支援を、地域の方々そして医療従事者の方々にも可能にしてもらうための支援者養成講座を県外にも広める意味もありオンラインにて開催した。その際にオンラインが苦手である講師及び参加者に対して、当日定刻通りに開催できるように事前に確認、開催時に資料共有がうまくできない場合などに備えて事前にPDFで資料をもらってそちらを活用するというイレギュラーにもしっかりと対応できるようになりオンライン講座開催のスキルアップができた。 ● 講座開催後アンケートを実施したことによりイツミーや講座に対する参加者、及び利用者の金額感などを数値化することができた。 ● 実際に医療的ケアが必要な子どもとその家族に対する個別の避難訓練実施にあたり地域の方々への連絡、関係各所への連絡、必要な文面などのマニュアル化が可能となり今後の避難訓練実施の際に運営をスムーズに行うことが可能になった。 ● 実際の避難訓練開催を通して、スタッフの事前準備、当日のサポートの質の向上に繋がった。</p> | | <p>今年度は、当団体が行ってきた医療的ケア児とその家族の避難支援事業であるひなんぴんのメイン目標であった避難訓練を地域の方々とともに開催することができた。今回の開催に至るまでに、医療的ケア児のこと、医療的ケア児とその家族の防災には何が重要なことを知ってもらうために支援者養成講座を行い、知識を多くの人に広めようとしたが、参加者の多くは知識を得ることだけに留まってしまい、実際に得た知識を活用する機会を得ようとしなかったことが分かった。 また実際に避難訓練をするにあたり、お子様の症状や家庭の事情などで話が進まないことが多々あった。今後多くの人たちに、今回の避難訓練を参考資料として活用してもらうために記録用動画の撮影はマストであったが、個人情報保護の観点から承を得ることが難しかった。それらの問題を事前に把握して、解決策や代替案を準備しておくことが、円滑な避難訓練実施に繋がると感じた。</p> | | <p>この1年間の活動を通じて 地域を巻き込んだ医療的ケアが必要な子どもの避難訓練実施 を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入） 地域の方々とのコミュニケーション不足であったが、今回思い切って自身の子どもの症状や避難の際に必要なことを知ってもらえたことで、その地域で生活する安心感を得ることができた。</p> |